

平成 22 年 5 月 31 日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）
 研究期間：2008 ～ 2009
 課題番号：20830077
 研究課題名（和文） 農村における生活の「合理化」過程に関する社会学的研究：「高度経済成長期」を中心に
 研究課題名（英文） Life “Rationalization” in Rural Community: Focus on japan ’ s High Growth Period

研究代表者
 増田 仁（MASUDA MEGUMI）
 熊本大学・教育学部・講師
 研究者番号：80510560

研究成果の概要（和文）：

山形県鶴岡市において「高度経済成長期」に展開した農繁期託児所に関する聞き取り調査を生活改良普及員や農繁期託児所経営者、託児所に子どもを預けた親に対して行った。さらに当該地域の生活状況に関する統計書や地域史および農繁期託児所の保育士の手記等の文献資料の収集・分析を行った。農繁期託児所において、衛生教育や「標準」語の教育が施され、農村生活を「合理化」させていく契機となったが、託児所と農村家庭との狭間に立たされた子どもたちは生活上の矛盾を抱え込まざるを得なかった。

研究成果の概要（英文）：

I interviewed about rural nursery at Turuoka city in Yamagata prefecture . In rural nursery nurses taught hygiene and standard Japanese to children. This practice promoted rural life “Rationalization” . But children whose position is between nursery and rural family held contradiction in life.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	1,020,000	306,000	1,326,000
2009 年度	1,080,000	324,000	1,404,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：生活の「合理化」・農繁期託児所・農村生活・高度経済成長期・女性労働・農村保育の理論化・家政学の系譜・家政学的実践の展開

1. 研究開始当初の背景

申請者は 2003 年から 2007 年にわたって

栃木の農村地域において、元生活改良普及員、元家庭科教員、農家の人々等を対

象にインタビュー調査を実施した。「高度経済成長期」に行われた離乳食指導や共同炊事といった家政学的実践が地域社会に何をもたらそうとしたのか、さらに地域住民はこの実践に対してどのような自発的な動きをしていったのかについて考察をしてきた。その結果、栃木県という北関東の一地域だけでなく、日本全国の各地域で調査を行い、当該期に地域の女性たちが家事労働を通じてつながり合う動きの普遍性やその意義について検討する必要があると痛感するようになった。

2．研究の目的

本研究は「高度経済成長期」の日本の農村社会における家政学的教育による生活の「合理化」過程を明らかにすることを目的とする。具体的には家政学的教育がどのような形で地域住民の生活世界に介入し、「合理化」を推し進めようとしていったのか、さらに地域住民はこの教育実践をどのように受け止め、読み替え、生活世界に取り込んでいったのかを検討する。当該期には農林水産省は唱える「生活改善」の名の下に、生活改良普及員や家庭科教員によって、農村生活における衣食住の「改善」が「指導」されていく。彼女らによる「指導」を受けながら、地域住民や学校における生徒は自らの生活をどのように捉え返し、変化あるいは維持させようとしていったのか。その過程を日本各地でのインタビュー調査や文献資料等から詳細に検討していく。

3．研究の方法

「高度経済成長期」に生活改善普及事業を通じて行われた家政学教育およびその実践が、農村女性の労働・生活状況に与えていった意味を分析するための理論的枠組みを明確にする。同時に東北地方の地域史や産業構造、人口動態に関するデータ、「高度経済成長期」に行われた農繁期託児所の実施内容に関する資料を取り寄せ、読み込みながら具体的な調査対象地域を絞る。次に夏季休業を利用し

て、東北の農村地域に赴きインタビュー調査を実施する。特に生活改良普及員経験者、農繁期託児所の管理者や保育に従事した人、農繁期託児所を利用した農家の人々には重点的にインタビューを行う。まず、県庁や役場に問い合わせをして、「高度経済成長期」に生活改良普及員を経験した方を数名紹介してもらう。次に、生活改良普及員経験者にインタビューをし、農繁期託児所に子どもをあずけた農家の女性たちを紹介してもらう。紹介していただいた農家女性の数が少ない場合は、公民館等地域の人々が集まる場所に出向き、農繁期託児所利用者がおられないか直接訪ねる等の工夫をする。聞く内容は以下のとおりである。農家の人々に対しては、当時の年収や土地の面積等社会階層を裏付けることから、生産労働・家事労働双方の労働状況、農繁期託児所に子どもを預けようと思った動機、共同炊事においてどのような活動に従事したのか、農繁期託児所に子どもを預けた経験が生活に及ぼした影響（自発的なネットワーク形成への動きがあればそれについて詳しく聞く）など。普及員経験者や農繁期託児所管理者およびそこで保育士をされた方に対しては、農繁期託児所の目的・保育内容、実施の経緯、実施期間、農繁期託児所がどのように展開したのか、農家および生活改良普及員等役場関係者の参加人数、農繁期託児所終了のいきさつについて詳しく語ってもらう。これまでのインタビュー調査の経験を生かして、地域の方言を交えて話すなど、農家の女性たちがリラックスして話せる雰囲気を作る工夫をする。同時にそれぞれの地域の図書館や役場において広報等の地域史を補強するデータや日記など人々の手による生活誌等の一次資料を収集する。

4．研究成果

2008年8月に東北6県に赴き、「高度経済成長期」に生活改良普及員を経験した方々に会い、当時それぞれの地域の労働・生活状況および共同炊事や共同作業といった、労働・生活を共同化する動きについて聞き取り調査を行う。残存資料の多様性や調査の容易さ等の理由から、山形県を調査地とする。2008年12

月、山形県立図書館にて山形県の地域史、農業改良普及誌のバックナンバー、当該期の農業従事者割合等統計データや農繁期託児所に関する資料の収集を行った。

2009年3月、東北でも有数の農業地域である山形県庄内地方、具体的には鶴岡市において「高度経済成長期」前半における農繁期託児所および当該期における農村生活の聞き取り調査を行った。農繁期託児所の開設経緯や農繁期託児所が子どもたちにどのような教育（あるいはしつけ）をおこなったのか、託児所主催者に具体的に聞いていった。子どもを託児所に通わせた地域の人々に対しては、農繁期託児所に通うことで、子どもたちにどのような変化がみられたのか、あるいは託児所は家事労働の軽減にどのような役割を果たしたのか、等について尋ねた。さらに、農村女性に対しては、当時の農村での子育ての様子や特に農繁期における女性の労働状況について詳しくインタビューを行った。

当該期の山形県庄内平野において、農繁期託児所が子どもに衛生観念や「標準語」を教えることを通して、農村生活をいかに「合理化」していったのか、その過程についてデータから実証し、論文にまとめた。

2009年度の前半は、前年度山形県鶴岡市で収集した、農繁期託児所に関するデータを分析しながら、論文としてまとめるために必要な理論的枠組みを作り上げていった。具体的には、アメリカでの協同家事に関する文献や社会的なるものが家族に介入していくプロセスを理論化した文献を参照しながら、子育てという家事労働を共同で行う意味について理論的位置づけを行った。この研究成果を9月に第61回日本教育社会学会において発表した。

2009年度の後半は、まずアメリカ女性史や家政学史が蓄積してきた、アメリカにおける家政学の誕生に関する文献を収集・読解し、家政学がどのような経緯で、どのような思想的根拠をもって成立し、その後具体的実践として進展していったのかをその社会的背景とともに読み解いていった。次に1900年代以降の大学や中等教育機関での家政学教育や生活改良普及事業等の展開に関する法がどのように制定され、現場で生活の「改善」に関する働きかけがおこなわれていったのか、分析し

た。最後に農繁期託児所において教育の対象となった子どもの生活世界を理解するために、子どもに関する理論書や「遊び」、食事（おやつなど）等子どもの生活を分析した実証的研究を精読した。これらの作業を通して、戦後日本の農村において家政学的教育がどのように介入していったのか、それに対して子どもたちはどのように自らの時間および空間を統御しようとしたのかを把握した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計2件)

増田 仁、東北農村における生活の「合理化」過程の再検討、白鷗大学教育学部論集、査読無、2009年、第3巻第1号、pp.133-149

増田 仁、農家女性の家事労働における共同化の意味 栃木県2地区の共同炊事に関する事例調査から、社会学評論、査読有、59巻3号、2009年、pp.442-461

〔学会発表〕(計1件)

増田 仁、農繁期託児所による農村生活の「改善」過程、第61回日本教育社会学会、2009年9月12日、早稲田大学

〔図書〕(計1件)

柳昌子・中屋紀子編著、学術図書出版社、『家庭科の授業をつくる』、2009年、pp.38-46

〔その他〕

ホームページ等

<http://masuda.her.jp/index.html>

書評『学校教育の中のジェンダー』日本家庭科教育学会誌、2010年7月（刊行予定）

日本社会学会論文の部奨励賞次点

6 . 研究組織

(1)研究代表者

増田 仁 (MASUDA MEGUMI)

熊本大学・教育学部・講師

研究者番号 : 80510560

(2)研究分担者

()

研究者番号 :

(3)連携研究者

()

研究者番号 :